



ブースで販売を行なうコープあもりの皆さん。

2013年11月3日、いわて生協マリンコープDORAにて「宮古コープ復興応援まつりPart.3 感謝・希望・未来」が開催され、地元の方を中心に約1万人が来場しました。

この復興応援まつりは3回目の開催で、全国の生協も応援に駆け付けました。12年に引き続き参加した生協共立社(本部・山形県)、コープあいち、日本生協連に加え、コープあもり

いわて生協の復興応援まつりに全国から11生協が参加
いわて生協、コープあもり他



昨年を上回る、約1万人が来場した宮古コープ復興応援まつり。

※ いわて生協では、県内エリアを16コープに分け運営している。

いわて生協宮古コープ組合員理事の香木みき子さんは、「復興に向けて頑張っている地元団体や生産者・企業の皆さま、全国の生協の皆さんと一緒にまつりを盛り上げ、みんなで楽しい時間を過ごすことで明日への活力が生まれればうれしいです」とコメントを寄せました。

り、いばらきコープ、コープぐんま、ならコープ、おおさかパルコープ、大阪よどがわ市民生協、鳥取県生協、生協しまねからも職員・組合員が参加し、ブースでの販売や祭りの運営を行ないました。

コープいしかわでは13年11月1日、3日、今年度4回目となるボランティアバスを運行し、組合員・役員など13人が岩手県陸前高田市広田地区を訪れました。コープいしかわは、11年5月20日よりボランティアバスを運行しており、今回で16回目となります。

今回は、仮設住宅で石川県の郷土料理である「めった汁」(豚汁)のふるまいや、サロン活動を行いました。約10



足湯につかっていただき、ハンドマッサージをしながらお話を聞くコープいしかわのボランティアの皆さん。

岩手県陸前高田市へ16回目のバスボランティア開催
コープいしかわ



13年8月23日~25日に開催された、東日本大震災の被災地を訪ねる「親子スタディツアー」では、みやぎ生協の「東日本大震災学習・資料室」の見学も行った。

種類の材料が入った具だくさんのめった汁に歓声が上がっていました。

また、第2回目のバスボランティアから実施している足湯は好評で、毎回楽しみに参加している住民も多いといいます。住民の方に足湯につかっていたきながらボランティアがハンドマッサージを行ないました。手も足も温まり、心に寄り添うことで会話が弾み、笑顔があふれる交流となりました。

コープいしかわではバスボランティアのほかにも、被災地を訪ねる「親子スタディツアー」や福島の子ども保養プロジェクト(コヨット!)の受け入れなどを含めたさまざまな支援活動を行なっています。

ニュース
被災地を訪問した
参加者の要望で
被災地の商品を供給
エフコープ

エフコープ（本部・福岡県）では、13年12月3週の宅配の企画で、津波の被害を受けた宮城県気仙沼産のサメを使ったぬか炊きと、津波で子どもを亡くした母親らが書いた手紙を元に書かれた絵本『ひまわりのおか』の供給に取り組みました。

これは、同年7月に、エフコープが組合員から参加者を募集して実施した「被災地訪問の旅・宮城」の参加者から「被災地域の食材を使った商品を取り扱ってほしい」との声があり、その要望に応えるかたちで実現した企画です。エフコープの組合員理事である江口瑞枝さんは、「商品を通して、被災地で暮らす人たちの思いを感じ



13年7月に開催した「被災地訪問の旅・宮城」の様子。

ていただけるとうれしいです」と、宅配のチラシにコメントを寄せました。供給高の一部は、みやぎ生協が取り組む「ふれあい喫茶」にお茶菓子を提供する費用に充てられます。

※ 前述のお茶菓子提供など、被災地からの具体的支援の募集を、会員制情報サイト「日本生協連情報プラザ」内「復興支援情報」に掲載している「支援募集情報」（毎月15日前後更新）で呼び掛けています。

エフコープのみなさまへ

震災以来、エフコープのみなさまにはず〜っと支えていただき、ありがとうございます。下を向きたくない時も、「一緒にいるよ!」ってたくさんの大きな温かい手が、背中を押してくれました。気仙沼の水産業はまだ道半ばですが、あきらめません。必ず起き上がりますので、もう少しだけ背中を押してください。



みやぎ生協・元地域代表理事 春日京子さん

チラシには、みやぎ生協の組合員やメーカーなどのコメントもあわせて掲載した。

※ ぬかみそを煮付けのだし汁として、鮮魚やたけのこ、こんにゃくなどを炊いた旧豊前国（北九州市を中心とした福岡県北東部）の郷土料理。

被災地からのメッセージ

全国の皆さまへ

パルシステム福島・理事 **佐藤君枝** さとうきみえ



いつもあたたかいご支援をありがとうございます。

早いもので震災から2年半が過ぎました。福島県では依然として県内や県外へ避難している住民が約9万人を数えます。

まだまだ先は見えませんが、全国の生協の皆さんに支えられ、パルシステム福島もさまざまな活動を続けております。

2012年2月には、それぞれの方の得意なことを生かして少しでも前向きになるきっかけができればと、手芸部「ふくちゃん」を立ち上げました。いわき市に避難されて来た方々と月に1回集まっておしゃべりをしながら、お人形や手芸小物を作っています。最初は、黙々と作業されていた方も、ここでお友達をつくれ楽しく手芸をされている姿を見ると、活動をしていてよかったなと感じます。

また、この冬にはパルシステム連合会の企画で、岩手県産の

イカ軟骨、宮城県産のカキ、福島県で加工したマグロハラミなどを使用した「みちのく福幸なべ〜仙台味噌仕立て〜」を販売いたします。これはどうしても実現しなかった企画で、組合員の皆さんに食べていただくことで、ほんの少しではありますが、東北の経済を回すお手伝いができればと思い開発しました。ぜひ、召し上がっていただけたらと思います。

今後は、多くの方に参加していただけるよう、年代別のイベント企画も考えていけたらと思っています。福島復興のために自分たちでできることを考え続けてまいります。今後もご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

メッセージ全文は、日本生協連「復興支援ポータルサイト」内、「つながろうCO-OPアクション情報」ボタンをクリックし、ご覧いただけます。「日本生協連 復興支援ポータルサイト」でインターネット検索を。



いわて生協は11年6月からバスボランティアの運行を始めた。10月26日には岩手県陸前高田市で106回目のボランティアが行なわれ、来年まく花の種の準備をした。

リサーチ「被災地のいま」

ボランティア活動

発災から間もなく3年がたちますが、依然として約28万2,000人もの方が避難生活を送っています(2013年10月25日、復興庁調べ)。不自由な避難生活を送る方の支援や、農作業などの人手不足に対して、多くのボランティアが現地入りしていますが、その数も減少してきています。そうした中、生協もさまざまな支援活動を継続しています。

ボランティア数がピーク時の4割に減少

全国社会福祉協議会の調査によると、東日本大震災発災以降、被災3県を訪れたボランティアの数(二カ月間の計)は11年5月の18万2,400人がピークで、13年9月は7,600人にまで減少しています。しかし、被災地住民の状況を見ると、仮設住宅の入居戸数は、入居がほぼ完了した12年12月が4万8,447戸、13年9月が4万7,570戸と、ほぼ変わっていません。災害公営住宅^{*}の建設は進んでおらず、被災地の主産業であった農林水産業も復興には時間がかかりそうです。ボランティアによる支援は今後も求められるのですが、そうした声になかなか応えられていないのが現状です。

求められる、ニーズに応じたボランティア活動

生協は発災直後から被災地のニーズに応じた活動を続けてきました。被災各地の生協は、大きな被害を受けながらも発災の当日に対策本部を設置。組合員と職員の安否確認、店頭や避難所での物資提供・炊き出し活動などに取り組みました。全国の生

協も速やかに支援人員と物資を被災各地へ送りました。その後も募金活動、避難所や仮設住宅に入居している方のための移動販売や買い物バス運行、弁当配送などさまざまな支援を行なっています。

また、事業だけではなく、被災家屋の片付けや泥出し、救済物資の仕分け・積み込み作業、農水産業再開のためのがれき撤去や津波をかぶった土地の塩分除去、土のう作り、そして仮設住宅でのサロン活動、子ども向けの学習支援や遊び支援、地域の祭りの復活など多岐にわたる生協の活動が、被災地域や行政などに評価されてきました。

とりわけ仮設住宅でのサロン活動は、自治体や地元社会福祉協議会との連携もあり、重要な活動となっています。サロン活動に取り組む被災地の生協に話を聞くと、「冬を迎え、3月11日が近くなると気持ちが落ち込む人が増えるので、なるべくお声掛けするなど、気を付けるようにしています」「仮設住宅から一歩も外へ出ず、誰とも話さない日々を送る方のためにも、仮設住宅でのサロン活動の継続は



生協ひろしまが、9月28日～10月5日に、岩手、宮城、福島^{*}の仮設住宅などをまわってお好み焼きを提供。本場の味に、笑顔が広がる。

重要な課題だと考えています」「楽しいイベントを企画して、なるべく参加していただける工夫をしています。仮設住宅から出てきて気分をリフレッシュできるようなことを考えています」といった声が聞かれました。

生協は被災地の皆さんに寄り添い、地域を大切にすることを重視しています。そのときどきのニーズに応じた支援を、被災地域とコミュニケーションをとりながら続けていくことが期待されています。

(文 荒川和巳)

^{*} 家を失った被災者に、自治体が賃貸で提供する住宅。